

令和5年度
埼玉県新たな地域クラブ活動実証事業
～川越市内中学校サッカー部への活動支援～

COEDO KAWAGOE F.C

JTB川越支店



感動のそばに、いつも。

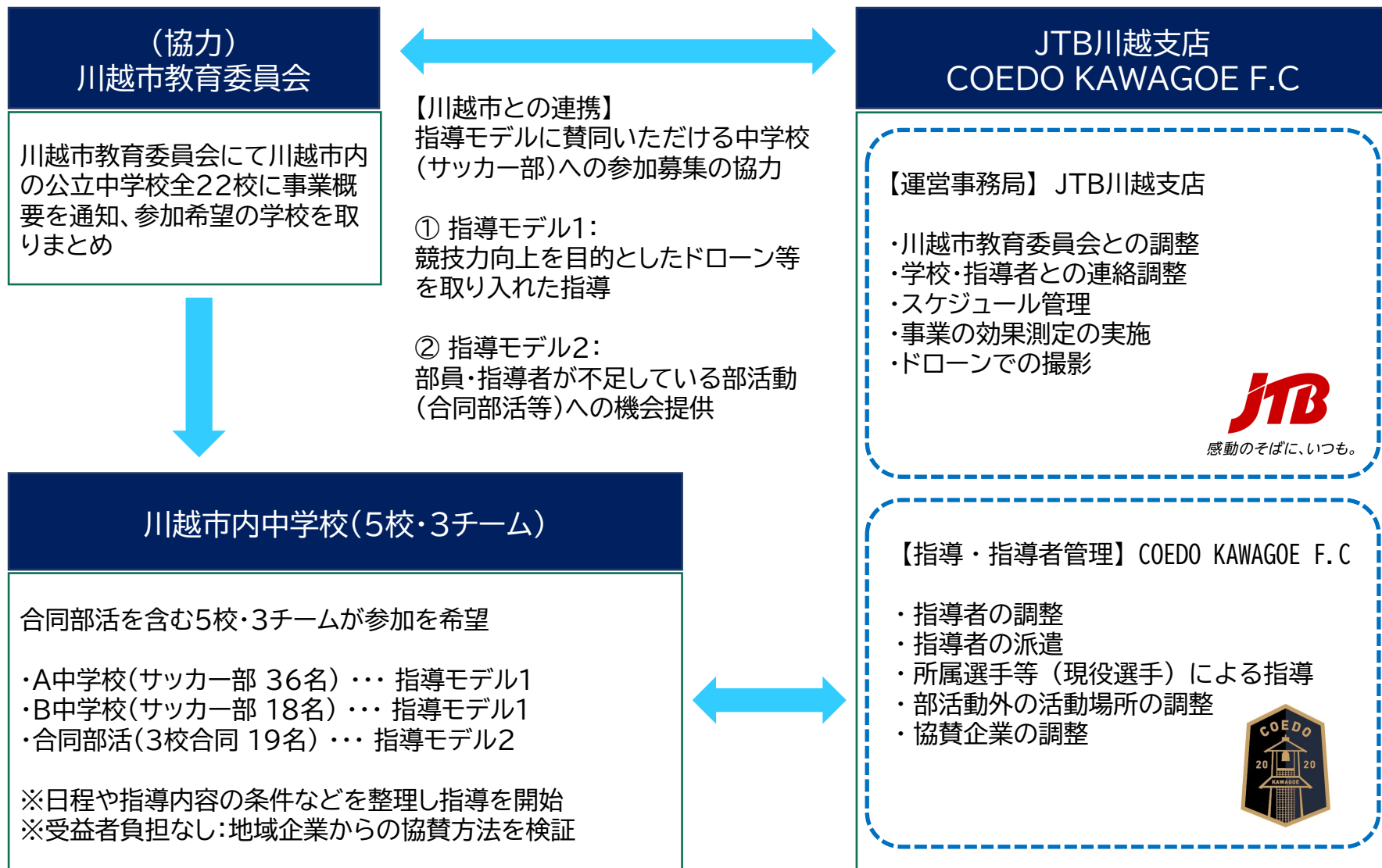


目次

- 事業実施体制
- JTB概要
- COEDO KAWAGOE F.Cクラブ概要
- 事業実施スケジュール
- 活動の様子
- 事業概要（事業の目的・活動内容紹介）
 - 1、合同部活動の推進
 - 2、短期間で効果的な活動の推進
 - 3、受益者負担・収益源確保に向けた取組
 - 4、今後の運動部活動の地域移行に向けた取組
 - 5、生徒の成長に向けた取組
- 最後に

事業実施体制

～川越市内中学校サッカー部への活動支援～



| 指導員の人件費に 寄付金募集へ

YOL 読賣新聞 オンライン

川越市は市立中学校の部活動の地域連携・地域移行を進めるため、今年度中に基金を創設する。外部指導員の人件費や活動費に活用する。(12月)25日の市議会本会議で関連条例案と補正予算案が可決された。原資は約1000万円。

川越市は市立中学校の部活動の地域連携・地域移行を進めるため、今年度中に基金を創設する。外部指導員の人件費や活動費に活用する。25日の市議会本会議で関連条例案と補正予算案が可決された。原資は約1000万円。今後、市ホームページやSNSなどで市民や市内企業に寄付金を募り、基金に積み立てていく。市によると、こうした基金の設置は県内の自治体で初めて。

基金の創設は、年度をまたいで柔軟に使える財源を確保することと、募った寄付金の用途を明確にしておくことが目的だ。

市教育指導課によると、市内の市立中22校では7月時点で計277の部活動があり、9割弱の生徒が加入している。市は今年度から土、日曜を中心に教員に代わって部活動の指導を行う地域の指導員を雇っており、バスケットボールや剣道など、6校で8人が専門的な指導に当たっている。

国や県の指針などに沿って、市は2025年度までに、教員の代わりに土日は外部指導員が学校の部活動を指導する「地域連携」、26～28年度の3年間には、地域で行われているクラブ活動に生徒が土日に参加する「地域移行」を推し進める計画だ。教員の負担軽減に加え、生徒数の減少で1校だけでは活動が難しい部活動が出てきていることから、生徒の活動維持を図る狙いもある。

～今月の題字デザイン～

県立川越工業高校3年生 川畑好葉さん

#1 サッカー選手が地元の子どもたちを指導



北原毅之選手 中学生にパスやシュートのお手本を披露

COEDO KAWAGOE F.Cの選手が中学生を指導



昨年12月26日、川越市出身の元Jリーガー・北原毅之選手が地域クラブ活動実証事業の一環として野田中学校、富士見中学校、高階中学校のサッカー部を指導しました。中学生とパスやシュート練習を行いながら、それぞれ何のためにこの練習をやるのか、意味や目的を意識しながら練習することの大切さを伝えていました。

「練習で100%、120%を出してやることがすごく大事。なかなかできないけど、それができれば上手くなっていくと思います」と、今までの経験から生徒たちがサッカーを楽しんで上達していくために必要なこと等を話してくれました。

広報 **かわごえ** 
2024
No.1505
～ KAWAGOE ～

JTB概要（学校・教育機関向けサービス）

教育現場への深い理解と、ソリューション提供力を活かして、学校行事をトータルでデザインしています。

教育コンテンツ提供

探究学習やキャリア教育、SDGs理解、グローバル教育など、テーマに則した教育コンテンツを提供。

探究
学習



キャリア
学習



SDGs
理解



学校行事サポート

学校が行う教育活動全体を踏まえて、学校行事の運営をサポート。



修学旅行探究ノート

～楽しみながら学びを深める～

修学旅行の楽しさを残したまま、それを「探究的な学び」にするためのワークブック型学習教材です。これまでの調べ学習や体験学習が、自ら課題を発見し解決していく「探究的な学び」となるよう構成されています。また、eポートフォリオを使って学びを振り返りながら記録していくことで、一貫した主体的・対話的で深い学びが実践でき、自分だけの「学びのアルバム」が完成します。



学校行事 トータルデザイン

学校や地域の特性に基づいて、旅行行事やキャリア教育などの教室外活動と教室内活動を体系的に組み合わせ、育みたい資質や能力の育成に貢献。



■ 学校行事やカリキュラムと連動した学生イベントを開催



川越をホームタウンとして、Jリーグを目指すサッカークラブ



COEDO KAWAGOE F.C

2020年7月設立、10月法人化

未知のウイルスによって
世の中に閉塞感が漂っていた。
観光客は当たり前のようにいなくなり、
人々から笑顔はなくなっていった。

その現実をスポーツによって変えたい。
ゆかりある川越を『より良い街に』
という思いから発足したクラブです。

MISSION

フットボールクラブを通じて、 川越に夢と感動を創出し続け、100年続くクラブへ

サッカー



川越初の

Jリーグ参入への挑戦

勝利にこだわり、90分間観客を
魅了し続けられるチーム作りへの挑戦。

事業



クラブ事業で

新しいビジネスモデルへの挑戦

「スポンサー」「チケット」「グッズ」
に頼らない新たな収益の柱作りへの挑戦。

ホームタウン活動



関わる人全員が

心から誇れるクラブへの挑戦

クラブを取り巻く全ての人たちが胸を張っ
て自慢できるクラブ作りへの挑戦。

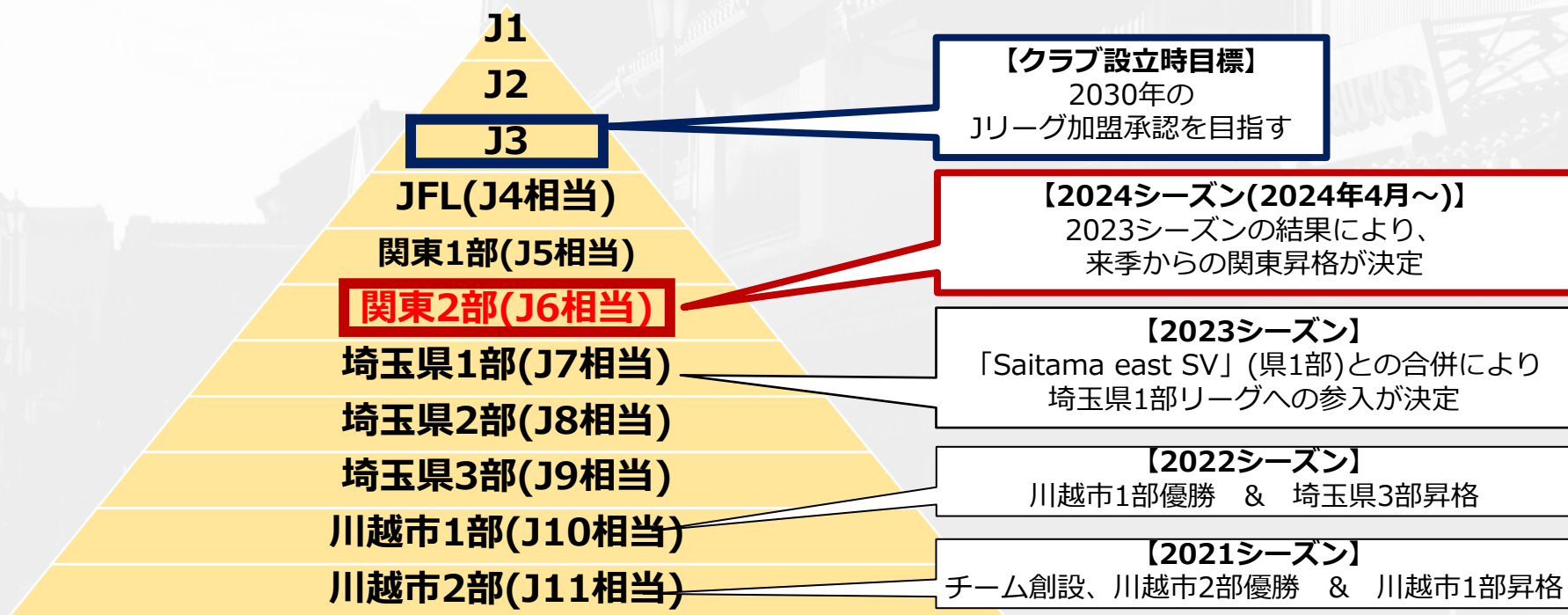
2024シーズンは「関東リーグ(J6相当)」への挑戦



【埼玉県内リーグ】 → 【関東（東京/埼玉/群馬/栃木/茨城/神奈川）リーグ】へ

2024シーズンより関東リーグ2部(J6相当)昇格が決定し、Jリーグ(J3)まで3年の距離へ。
Jリーグを目指す埼玉県の社会人サッカーチームの中で最も上のカテゴリへの参入となる。

今後、グラウンド/スタジアム問題などいわゆるJリーグ参入に当たって、本格的に行政をはじめとした多くの関係者を巻き込んでいく必要が発生していく。



2023年4月より「1FC川越水上公園」の共同運営開始



1FCジュニアサッカースクール卒業生 ～世代別代表選手も多数輩出！～



なでしこJAPAN・世代別日本代表選手を9名輩出

2023年4月より、川越水上公園を本拠地とし、小学生～高校生までの選手が所属する強豪チームであり、総勢700名以上が在籍するサッカークラブである「1FC川越水上公園」を運営する株式会社スポーツクリエイイト様と業務提携し、共同運営を開始。

川越からJリーグ加盟を目指すCOEDO KAWAGOE F.Cとの連携を通して、今後のさらなる両クラブの事業成長を目指す。

■両クラブの提携によるシナジー

- ①サッカー面において1FC川越水上公園の卒団選手が戻ってくる社会人サッカークラブとしての連携強化
- ②ホームタウン活動をはじめ、COEDO KAWAGOE F.Cのパートナー企業様200社様を中心に川越の多くの企業様との連携を通して、サッカー以外でも1FC川越水上公園の子どもたちに成長機会を提供できるクラブ化に向けた取り組み
- ③1FC川越水上公園とCOEDO KAWAGOE F.Cの両クラブの強みを持ち合った上での共同事業の立ち上げ検討
- ④COEDO KAWAGOE F.Cの広報ノウハウを生かした1FC川越水上公園の外部発信の強化



COEDO KAWAGOE F.Cの地域での取組事例



～街のインフラへ～



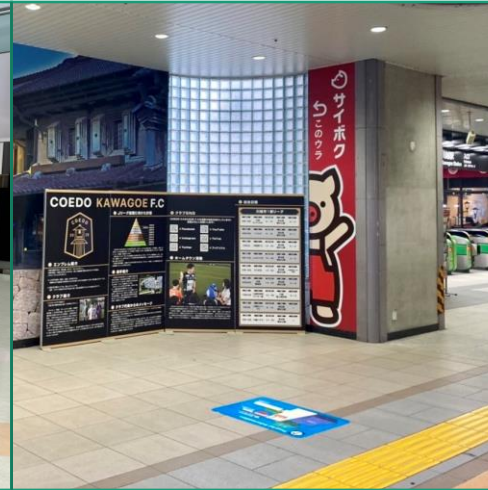
クラブモニュメント の建設

川越駅西口にて岩堀建設工業様とのコラボで、10mほどの展示が完成。COEDO KAWAGOE F.Cの飲食事業パートナー様がランチ時に出店。



西武本川越ぺぺ様で 7m規模の展示

特大パネルで、24人の選手やクラブ、地域での清掃活動などのホームタウン活動を紹介。



JR川越駅で継続的 な展示を実施中

リアルの場でも少しずつクラブの認知が進んでいる。



2021年よりクラブ オリジナル自販機の 設置も開始

関わる人全員が心から誇れるクラブへの挑戦に向けて歩を進めている。

事業実施スケジュール

～川越市内中学校サッカー部への活動支援～

A中学校 サッカー部36名	B中学校 サッカー部18名	合同部活チーム(3校合同) サッカー部19名	
【指導者】 COEDO KAWAGOE F.C菊岡選手 COEDO KAWAGOE F.C片山選手	【指導者】 COEDO KAWAGOE F.C瓜谷選手	【指導者】 COEDO KAWAGOE F.C北原選手	【指導者】 川越出身Jリーガー片山選手
12/17(日) 第1回指導	12/17(日) 第1回指導	12/25(月) 第1回指導	
12/26(火) 第2回指導 効果測定(事前測定・アンケート)	12/26(火) 第2回指導 効果測定(事前測定・アンケート)	12/26(火) 第2回指導	
12/27(水) 第3回指導 練習試合 A中学校 対 B中学校 ドローンでの試合撮影		12/27(水) 第3回指導 ・練習試合	12/29(金) 第1回指導 部活動の活動外での指導
12/28(木) 第4回指導 ドローン映像による振り返り 指導者からのメッセージ	12/28(木) 第4回指導 ドローン映像による振り返り 指導者からのメッセージ		12/30(土) 第2回指導 部活動の活動外での指導
1月下旬 効果検証 効果測定(事後測定・アンケート)	1月下旬 効果検証 効果測定(事後測定・アンケート)		1/6(土) 第3回指導
		1/20(木) 第4回指導 ・練習試合(予定) ・指導者からのメッセージ	1/7(日) 第4回指導 練習試合 ドローンでの試合撮影 指導者からのメッセージ
3月下旬(予定) 企業協賛によるサッカー大会の開催			

活動の様子

～A中学校 サッカー部36名～



菊岡 拓朗 選手



Jリーグ通算300試合以上に出場したMFで、SHIBUYA CITY FCより完全移籍加入。
東京ヴェルディで10番を背負ったこともある実力者。

活動の様子

～B中学校 サッカー部18名～



瓜谷 紫 選手



さいたま市出身。埼玉県立南稜高等学校/さいたまSC/St. Georges FC(マルタ)にてプレーを経験。

活動の様子

～合同部活チーム（3校合同）サッカー部19名～



北原 毅之 選手



川越出身の元JリーガーのMFで、VONDS市原より完全移籍加入。
SC相模原や鈴鹿アンリミテッド（現鈴鹿ポイントゲッターズ）などでプレーした実力者。

活動の様子

～合同部活チーム（3校合同）サッカー部19名～



片山 瑛一 選手

川越出身の現役Jリーガー。

COEDO KAWAGOE F.Cとの深いつながりがあり、Jリーグのオフ期間に指導を実施。

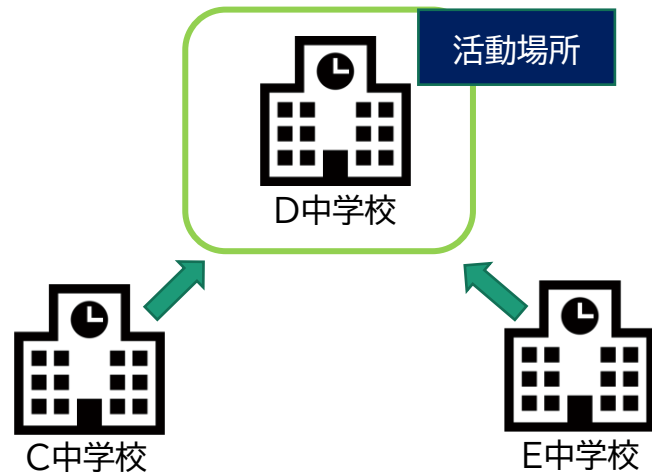


～事業の目的・活動内容紹介～

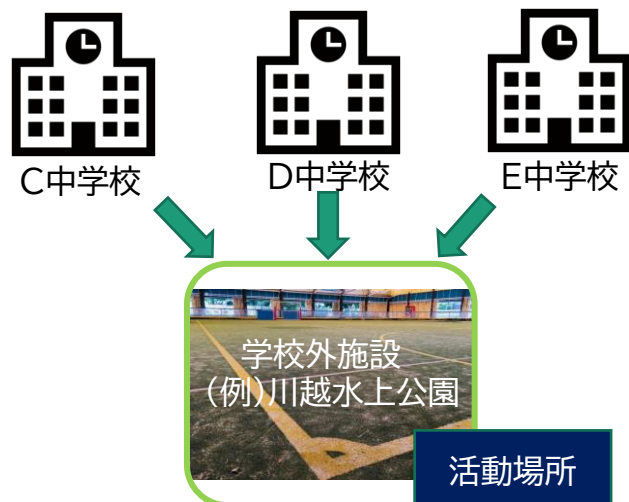
- 1、合同部活動の推進
(スポーツの機会提供)
- 2、短期間で効果的な活動の推進
(実証事業における効果検証・ICTの活用)
- 3、受益者負担・収益源確保に向けた取組
(持続可能性の検証)
- 4、今後の運動部活動の地域移行に向けた取組
(指導者の確保・環境の整備)
- 5、生徒の成長に向けた取組
(探究学習・キャリア教育の視点)

1、合同部活動の推進

①部活動の活動内での指導



②部活動の活動外での指導



～スポーツの機会提供～

【実施内容】

合同部活動（3校合同チーム）に指導
全8回の指導を予定

①部活動の活動内での指導

12月の冬休みにて実施

②部活動の活動外での指導

12月29日・30日に実施

※諸事情により中止

【実施の目的】

部員数や指導者の確保が難しい中学校（合同部活を想定）を対象に指導を実施。
スポーツの機会に恵まれない生徒に対して、
地域クラブ活動という新たなスポーツの機会を提供する。

※今回の対象校においては、3校全ての顧問の先生がサッカー経験者で指導実績もあり、競技レベルも高いチームだったため、実際は限られた練習時間でチーム力を強化する目的で指導

2、短期間で効果的な活動の推進

個々の教育活動が生徒のコンピテンシー変化に与えた影響を可視化

概要



J's GROWとは、学校行事や探究における様々な教育活動が、生徒のコンピテンシー変化にどのような影響をもたらしたかを可視化する「教育活動効果測定システム」です。

現代の教育では、思考力・判断力・表現力や、学びに向かう力、人間性など、ソフトスキル(=コンピテンシー)と呼ばれる資質・能力の育成が重要視されています。

修学旅行などの学校行事や探究は、これらの資質・能力を育む上で重要な役割を担っていますが、そこで行われる個々の教育活動が、生徒の資質・能力の変化にどのような影響をもたらしたかを可視化することは難しいとされてきました。

J's GROWは、AIを活用した相互評価で生徒の気質やコンピテンシーを測定する「Ai GROW」に、活動前後での生徒の意識変容を測定するアンケートを組み合わせることによって、個々の教育活動が生徒のコンピテンシー変化に与えた影響を可視化します。

Ai GROW

生徒一人ひとりの気質と
コンピテンシーを測定

独自開発アンケート

活動前後における
生徒全員の意識を測定



個々の教育活動が
生徒のコンピテンシー変化に
与える影響を可視化

～実証事業の効果検証～

【実施内容】

A中学校・B中学校の2校の生徒に効果測定を実施中。事業終了後の生徒のモチベーションや行動の変容について検証。

【実施の目的】

学校と部活動の関わりが減少していく中、効果測定システムを活用し学校現場だけでは分かりにくい生徒個人の気質や行動特性を可視化することで、教育現場における先生の負担を軽減し、効果的な活動に繋げていく。

①現役サッカー選手からの指導を通じた生徒内面の成長の可視化

②生徒の自己理解・相互理解促進による組織力強化

③顧問の教員による新年度に向けたチーム作りへの支援

2、短期間で効果的な活動の推進



～ICTの活用～

【実施内容】

ドローンでの試合撮影・フィードバック

練習試合(12/27)にてドローンを使って上空から試合の様子を撮影。俯瞰的な視点からのポジショニングや動き出し、戦術について指導。

【実施の目的】

競技力・チーム力向上に向けたICT活用の実践と検証

- ①サッカーなどの団体スポーツでは全体練習ができる時間が短くなることが想定される中、ICTを活用し全体練習の質を高めていく。
- ②動画を使ったフォームチェックや動画配信による指導など、指導者不足に備えたスマートコーチでの指導についても検証する。

3、受益者負担・収益源確保に向けた取組

～持続可能性の検証～

【実施内容】

地域企業協賛によるサッカー大会の開催
※3月実施に向けて準備中

実証事業参加学校の外、川越市内中学校、ジュニアサッカースクールチームなどにも参加を募り1デイカップの実施を計画

【実施の目的】

受益者負担の課題に向けた検証

①受益者負担を軽減しつつも質の高い指導を担保するため、地域企業などによる協賛での収益源の確保する。

②地域のサッカースクールとの交流など普段の部活動では経験できない機会を提供する。



4、今後の運動部活動の地域移行に向けた取組

～指導者の確保・環境の整備～

■ COEDO KAWAGOE F.C所属選手による指導

現役サッカー選手が地域クラブの指導員となることで、指導者人材の有効活用とプロ選手のセカンドキャリアへの支援など指導者側の環境整備を図る。

■ 総合型地域スポーツクラブとの連携

COEDO KAWAGOE F.Cが共同運営する「1FC川越水上公園」（川越水上公園スポーツクラブ）とも情報共有し、将来的なサッカースクール・総合型地域スポーツクラブとの連携を模索していく。

■ 学校行事との関連性を活かした取組

探究学習や学校行事関連のノウハウを生かし、学校・生徒や地域クラブ・指導員のニーズ・課題を把握し、今後の地域クラブ活動の体制整備を推進する機会とする。

5、生徒の成長に向けた取組



～探究学習・キャリア教育の視点～

【実施内容】

指導最終日に現役選手からの話や質問の時間を設定

(例)現役Jリーガー片山選手からのメッセージ

「サッカーも勉強も遊びも本気で取り組んでほしい。本気でやることで楽しく、負けると悔しい気持ちになる。次はどうやったら勝てるか考える。このルーティンを繰り返してきたことがプロになれた要因。色々なことに本気でチャレンジをしてほしい。」

【実施の目的】

教育活動の一環としての側面がある部活動のメリットを残していくため、現役のサッカー選手が競技やこれまでの生活を通じて学んだことなどを生徒の皆さんに共有し、技術面以外の成長を支援する。

その効果についても効果測定システムを活用して可視化し繰り返すことで、活動に取り組むPDCAサイクルを回していく。

参考情報

【参考】部活動改革における課題

①受け皿の確保

- ・ 地域スポーツクラブ
- ・ 民間企業
- ・ プロスポーツチームなど

+
上記を統括する団体が必要
(コーディネーターが必要)

②人材の確保

- ・ 指導者の「量」の確保
- ・ 専門性を持った指導者の「質」の確保

+
教師の兼業・兼職

③予算の確保

- ・ 受益者負担（保護者理解）
- ・ 企業協賛の獲得や企業版ふるさと納税、助成金など多様な財源の確保

④施設

- ・ 学校の体育施設
- ・ 公共の運動施設
- ・ 民間施設など。

※時間帯が重なる場合、地域のスポーツ団体（大人も含む）との施設の取り合いも課題。

⑤大会

- ・ 大会参加資格（地域団体でどう出られるか）
- ・ 引率は誰が行うか？
- ・ 教師主体の大会運営をどうするか？

※トーナメント制にも課題あり。
(試合機会が限られる)

⑥移動

- ・ 複数の学校で合同部活を行う場合、どう練習拠点まで移動するか？
(保護者負担や費用負担)

⑦情報共有

- ・ 平日と休日の指導者の情報共有
- ・ 出欠席の連絡
- ・ 過熱化（練習のやり過ぎなど）を防ぐ仕組み

⑧保険

- ・ 学校部活動以外での怪我については、自身の怪我等を補償する保険や個人賠償責任保険に新たに加入する必要がある。

⑨意識改革

既存のやり方に囚われない
新しい発想が必要なため、
学校スポーツ関係者の
意識改革が必須であり、
いちばんの課題でもある。

参考情報

目的に合わせた多様な選択肢を。

まずは現在の活動量や時間が本当に正しいのかを
再考するところからスタートすべき。

現状

参加なし

責任：学校（行政） 場所：学校

・週5回（2～3時間以上）
・オフ期間なし
・一つの種目のみ

ハードコース

・専門ではない指導者
・非科学トレーニング
・安全を担保できない施設

責任：地域クラブ 場所：民間・地域施設

・週5、6回（2～3時間以上）
・オフ期間なし
・一つの種目のみ

専門コース

・専門の指導者
・正当な参加費の支払い

課題①目的に関わらずほとんどの子どもが1つの種目で週5日、ほぼ一年中活動している。
課題②専門コースであっても「やりすぎ」傾向。教育的にみても、多様な活動の時間が必要。



未来

責任：民間 場所：民間・地域施設

・多様なイベントへの参加

エンジョイ イベント/クラブ

・多年齢の活動もあり

文化・スポーツに触れ合う機会を提供

責任：行政/民間 場所：学校

・週2～3回（2時間以内）
・3か月程度のオフ期間
・多様な種目の経験

バランスコース

・安価な参加費の支払い
・仲間と一緒にスポーツを楽しむ、熱中する

行政と民間が連携し継続的な機会を提供

責任：地域クラブ 場所：民間・地域施設

・週3～4回
・2時間以内
・2か月程度のオフ期間

専門コース

・専門の指導者
・正当な参加費の支払い
・競技力の向上

専門的・良質な体験ができる体制を構築

多様な選択肢が選べる & well-beingな状態

最後に

～部活動改革への支援に向けて～

自治体や教育機関、地域クラブ、地域企業との協力体制を築き、子どもたちや地域住民の方が持続的にスポーツや文化活動を楽しめる環境をつくって
いけるように取り組んでいきます。

